

個別課題: 苦痛のスクリーニング用紙配布数と回収率  
(平成30年7月1日～12月末日)

施設名:	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
51 独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 大阪病院	外来と入院合計で配布数 1,000件 (平成29年998件) 回収率90% (平成29年85%)	1)前年、入院患者におけるフローチャートを改善し、入院診療計画書の病名に「悪性腫瘍」あるいは「がん」を含む患者に漏れなくスクリーニング用紙が配布されるようにした。この体制を維持する。 2)スクリーニング用紙の回収漏れが生じており、漏れなく回収できる体制を整備する。 3)外来において、スクリーニング用紙を配布・回収できる体制が整備できないか部門毎に検討する。	1)外来と入院合計の配布枚数1163件、回収枚数1139件、回収率97%であり、目標値は達成した。 2)現場における、配布から回収・入力体制は維持され定着している。緊急入院した場合は、後日配布するように取り組み、また回収漏れを防ぐために電子カルテ付箋機能を用いていた。 3)外来配布枚数は88件で、昨年度同様、放射線治療科が大半であった。	苦痛のスクリーニング用紙の内容において、現場スタッフより初対面の患者やその家族に死の話題や、医療従事者との信頼関係についての項目が尋ねにくいとの意見が出されている。スクリーニング用紙の改訂を検討する。